

## 街路樹

英語教育のこれから  
～学校の英語教育はどう変わるの?～

文部科学省が2013年12月13日に公表した『グローバル化に対応した英語教育改革実施計画』では、「英語によるコミュニケーション能力を確実に養う」という目標のもと、東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、2018年から、将来的に「英語で討論・交渉できること」を目指した実践的な英語教育へ転換していく方針が示されました。

具体的には、以下のようになっています。

## 小学3・4年生

週1～2コマ程度の学級担任主導による「活動型」授業

## 小学5・6年生

学級担任に加え専門教員等も活用し、「モジュール授業」も取り入れた週3コマ程度の「教科型」授業



## 中学生

英語の授業は英語で行うものとし、高校の内容も一部採用。生徒の目標となる達成レベルを英検「3級程度」から「準2級程度」に。

今回の英語教育改革は、グローバル化時代における情報収集やコミュニケーションの手段として、英語の重要性が再認識されたこと等が背景にあります。これからのグローバル化社会を生きていく子どもたちが、これまでよりも早い段階で2つ目の言語に出会うことは、英語力の向上だけではなく、異文化への理解を深め、人間としての視野を広げることにもつながることでしょう。

本改革は、小中の円滑な接続があってこそ成り立つものなので、これまで以上に異校種の連携を意識した研修が必要です。現に小学校の先生が中学校の英語科授業を参観したことで、子どもに中学校英語への憧れを持たせるような指導につながった、という声も聞きます。英語教育の波が来たこのときに、教員をしていることを前向きに捉え、ぜひ積極的に研修を活用してはいかがでしょうか。



- 授業力向上講座Ⅲ 外国語活動**  
12月10日(木) 郷ヶ丘小学校
- 授業力向上講座Ⅲ 中学校英語**  
12月24日(木) 総合教育センター

11月

発達障害と生徒指導  
～「個別支援」と「集団指導」～

地域や家庭の教育力が低下する中で、学級や学校に「困難」を感じている児童生徒は増加しています。特別支援教育等が進められる中で個に対する支援のノウハウが蓄積され、教職員の間にも理解が広がってきています。

その反面、そうした児童生徒に対して「発達障害」等のラベルを貼り、他の児童生徒と切り分けて考える「問題対応型」の発想も広がっています。発達障害やその傾向にある児童生徒を特別視するのではなく、他の生徒よりも「つまずきやすい」児童生徒という見方での対応が必要です。その上で、指導者は「個別支援」と「集団指導」に基づく2つの対応が求められます。

「個別支援」に基づく対応とは、「つまずきやすい」児童生徒に対して、個に即した助言や支援を行うことです。また「集団指導」に基づく対応とは全ての児童生徒が互いに特性等を理解し合い、助け合って共に伸びていこうとする集団づくりのことで。

集団を高めることを意識して行う集団指導と個を高めることを意識して行う個別支援の間には、車の両輪のような関係があります。どちらか一方に偏ることなく状況に応じてバランスよく行うことが大切です。

児童生徒一人一人の児童生徒理解を踏まえてどの児童生徒も安心して学べる学級づくり、授業づくりを進めていきましょう。

「国立教育政策研究所生徒指導リーフ」より



## 研修講座のお知らせ

## &lt;教育実践研究発表大会のご案内&gt;

- 日 時：2月6日(土)10:00～15:30
- 会 場：いわき市文化センター大ホール
- 内 容：【午前】 調査研究委員発表会  
【午後】 講演会
- 講 師：水戸部 修治 氏



(文部科学省初等中等教育局教科調査官)

本大会は、市内幼稚園、小・中学校における教育実践のさらなる向上に寄与することを目的として開催しております。

午前中の調査研究委員発表会では、指導力の向上という視点からより優れた授業実践についての発表を、そして午後は文部科学省初等中等教育局教科調査官である水戸部修治先生をお招きし講演会を行います。現在、中教審で話し合われている最新の情報をうかがうよい機会となると思っております。

※ 参加申し込みは12月に行います。

多くの参加申し込みをお待ちしております。